

「多様な価値観を理解しあい、  
その違いを新たな創造へ  
導く力を持つ人物の養成を目指す。」

2021年9月  
入寮開始  
(予定)



(完成予想図)

## 1 エントランス

エントランスに企画イベントスペース、展示スペースを設置しており、皆が必ず通る場所と一緒に企画ができる、寮生交流の場所にもなっています。またご両親などが訪ねてくる場合には、エントランスのスペースで会話ができるようにしています。2階、3階フロアへのアクセスは、このエントランスから専用のエレベーター、階段を利用します。入室の際にはICカードを利用し、寮生以外が通れないようセキュリティを高めています。



### 概要

- 同志社大学VISION2025にて掲げられた「日本人学生と外国人留学生が区別なく生活を共にし、学びあえる寮」を具現化した本学初の「教育寮」。
- 京都市市街地景観整備条例にもとづく勾配屋根と軒庇の外観、高さを低く抑えることで周囲の街並みと調和するデザイン。
- 地階と1階にはワークショップルームを配置し、外部の方へのプレゼンテーション等が可能なエリアを設置。
- 各フロアにはシャワールームを配備、地階には浴室を設置。
- 入寮募集は、2021年1月～開始予定。入寮費・寮費（月額）は現時点で未定であるが随時下記URLにて発表。  
[https://www.doshisha.ac.jp/students/l\\_support/living\\_intro/new\\_dorm.html](https://www.doshisha.ac.jp/students/l_support/living_intro/new_dorm.html)
- 留学生2名、日本人学生3名の5名を1ユニットとして、1フロアに16ユニット80人が居住。

### 教育寮コンセプト

- 人種、性別、障がいの有無、文化等の様々な違いや背景を持つ学生が混住・交流する環境のもと、多文化共生、地域社会との異世代共生を実践する生活を通して多様な価値観を理解し合い、その違いを新たな創造へ導く力を持つ人物の養成を目指します。
- 共同生活を通じた人格形成の場という学生寮の特長を伸ばさせるため、寮生は全員Residential Learning Program（寮生が、地域社会との関わり等を通じた実践学習に参加し、その成果の発表や振り返りを通して自己の成長を確認する取り組み）に参加いただきます。プログラム内容は今後決定いたしますが、まずは寮に慣れ、大学に慣れ、地域に慣れることをスタートとして、地域との関わりに重点をおいたプログラムになる予定です。

## 2 回遊ラウンジ



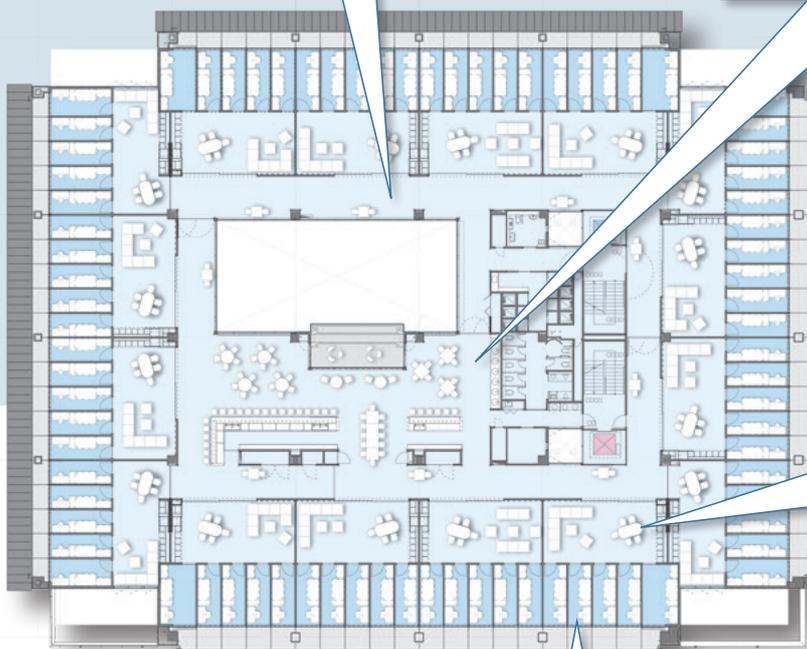
廊下という概念をなくし、皆が通る動線を回遊ラウンジと称して、日常的にフロアにいる全員と出会える機会を増やすようにしています。

この回遊ラウンジは自然（光・風・緑）を感じ、コミュニティラウンジとリビングを緩やかにつなぐ快適な交流空間になります。

## 3 コミュニティラウンジ



1番アクティブで大勢が集まれるコミュニティラウンジを建物の中心に配置しています。どの部屋からも気軽にアクセスができ、カフェのようなデザインのキッチンダイニングで日々の食事が作れます。気軽に自習・共同学習や企画、パーティーができる場所となります。近接する光庭から入る光と周囲の回遊ラウンジ、リビングと一体となった広々としたスペースとなります。机や椅子も寮生が集まりやすいように可動しやすいものになっており、様々な人数でのディスカッション等ができる仕組みになっています。



## 4 リビング



リビングは5人1ユニットの個室の前に配置されています。ユニットの5人が集まり共同学習や共同企画などを考える場所となり、個人でゆったりと読書をするなどのくつろげる場所にもなります。リビングの扉を開けた状態であれば、回遊ラウンジと一体となったときには行き来する寮生との交流が可能になります。回遊ラウンジに面した壁にはメッセージボードを配置して各ユニットの共同学習などの成果や企画の案内などを掲示できるようになっています。

## 5 個室

個室は、部屋にこもりすぎないように必要最低限の家具と空間でシンプルに構成しています。ただ、個人学習も重要ですから、集中できるように窓側に机、椅子を配置しています。ベランダもあり、洗濯物も干せる場所として利用できるようになっています。

